

安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

製品名	15%水酸化カリウム
品番	11625 (500ml 包装) 88092 (10L 包装)
会社名	武藤化学株式会社
住所	東京都文京区本郷 2-10-7
電話番号	03-3814-5511
ファックス番号	03-3815-4832
電子メールアドレス	mutopop@mutokagaku.com
緊急連絡電話番号	03-3814-5511
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	GHS 分類基準に該当しない	
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分 3
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類できない
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分 1B
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	区分 1 (呼吸器)
特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	分類できない	
誤えん有害性	区分 1	
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定さ

れた「分類対象外」、「区分外」、または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の 11 項に、「分類対象外」、「区分外」、または「分類できない」の記述がある。

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

呼吸器系の障害

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

容器を密閉しておくこと。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

接触、又は飲み込まないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる

こと。気分が悪い時は、医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合は、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除

くこと。皮膚を多量の石鹼と水で洗うこと。汚染された衣類を再使用する前

に洗濯すること。直ちに、医師の手当を受ける。

眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズ

を着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け、まぶた

の裏まで完全に洗うこと。直ちに、医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合は、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに、医師

の手当を受ける。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
	漏出物は回収すること。
	火災の場合は、消火するために適切な消火剤を使用すること。
保管	容器を密閉して、直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。 施錠して保管する。
廃棄	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
他の危険有害性	情報なし

3. 組成及び成分情報

単一・混合物の区別	混合製品	
化学名又は一般名	水酸化カリウム	水
濃度又は濃度範囲	15%	85%
分子式	KOH	H2O
CAS 番号	1310-58-3	7732-18-5
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	(1)-369	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし	

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。 皮膚を多量の石鹼と水で洗うこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 直ちに、医師の手当を受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け、まぶたの裏まで完全に洗うこと。 直ちに、医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 患者に吐かせようと試みると、かえって侵されて薄くなった胃壁が破れることがあるから絶対にしてはならない。 直ちに、医師の手当を受ける。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸入：灼熱感、咽頭痛、咳、息苦しさ、息切れ。症状は遅れて現われることがある。 皮膚：発赤、痛み、水疱、重度の皮膚熱傷 眼：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷。

	経口摂取：腹痛、灼熱感、ショック又は虚脱
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別な注意事項	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、対アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類、散水
使ってはならない消火剤	データなし
特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風下で作業行わない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
回収・中和	不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	危険でなければ漏れを止める。
二次災害防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

		熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
		粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
		容器を密閉しておくこと。
		防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
		取扱い後はよく手を洗うこと。
		この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
		屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
		汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
		環境への放出を避けること。
		接触、又は飲み込まないこと。
		保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	技術的対策	消防法の規制に従う。
	保管条件	容器を密閉して、直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。
		施錠して保管する。
		熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。－禁煙。
	容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	未設定
	許容濃度	日本産業衛生学会 最大許容量 2mg/m ³
		ACGIH TLV-TWA C 2mg/m ³
	設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置し、その位置を明瞭に表示する。 ばく露を防止するため、装置の密閉化又は防爆タイプの局所排気装置を設置すること。
保護具	呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	
形状	液体

色	無色透明
臭い	無臭
臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	アルカリ性
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
燃焼性(固体、気体)	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
密度	データなし
比重(相対密度)	データなし
溶解度	水に可溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 水溶液は強塩基で、酸と激しく反応する。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 光により変質するおそれがある。
危険有害反応可能性	酸との混触により発熱する。 熔融カ性カリは水と激しく反応し、アルミニウム、チタン、亜鉛、及びそれらの合金と反応して引火性、爆発性の水素ガスを発生する。 亜鉛、アルミニウム、クロム等金属と混触すると可燃性ガス(水素)を発生する。
避けるべき条件	高温、直射日光、混触危険物質との接触
混触危険物質	酸性物質、アルミニウム、チタン、亜鉛、及びそれらの合金、クロム。
危険有害な分解生成物	強熱により酸化カリウムと水素を発生する。

11. 有害性情報

参考	水酸化カリウム(CAS. 1310-58-3)のデータを記載	
急性毒性	経口	priority 1に記載されているラット、LD50値の統計計算値が284mg/kgであったため区分3に分類した。
	経皮	データがなく分類できない。
	吸入(ガス)	データがなく分類できない。

吸入(蒸気)	データがなく分類できない。
吸入(粉塵、ミスト)	データがなく分類できない。
皮膚腐食性及び刺激性	ウサギによる試験で腐食性(SIDS(2001))、ヒトに対して腐食性(SIDS(2001))との記載があり、国連分類クラス8IIに分類されていることから区分1Bとした。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ヒトに対して不可逆な障害(SIDS(2001))、ウサギの試験で腐食性(SIDS(2001))との記載があり、皮膚腐食性/刺激性のGHS分類が区分1Bであることから 区分1とした。
呼吸器感受性	データがなく分類できない。
皮膚感受性	モルモットの試験で陰性(SIDS(2001))との記載があり、ヒトの報告はないが、カリウムイオンとヒドロキシドイオンも生体内に存在するので、皮膚感受性の原因とはならない(SIDS(2001))との記載より区分外とした。
生殖細胞変異原性	水酸化カリウムのin vitro試験はエームズ試験で陰性(SIDS(2001))のデータはあるが、in vivo試験のデータはない。しかし、水酸化ナトリウムは体細胞in vivo変異原性試験(小核試験)で陰性、生殖細胞 in vivo 変異原性試験(卵母細胞異数性検出)で条件は限られているものの陰性(SIDS(2001))でありこれらのデータから水酸化カリウムも同様になると類推し、区分外に分類した。
発がん性	信頼できるデータがなく、IARC等の評価機関の報告もないため分類できない。
生殖毒性	データがなく分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	粉塵又はミストを吸入ばく露すると鼻、気管気管支に熱傷等の障害を起こし、肺水腫にまで至る(SIDS(2001))、(PATTY 5th(2001))との記載により区分1(呼吸器系)に分類した。
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	水酸化カリウムの反復投与毒性研究事例は見当たらない。ヒトの報告もなく分類できない。
誤えん有害性	吸引により肺炎で死に至るとの記載より区分1に分類した。

1 2. 環境影響情報

生態毒性	水生環境急性有害性	魚類(Gambusia affinis)による96時間LC50が80mg/ Lであり、56mg/Lでは魚類への影響は見られなかった(SIDS(2002))との記載があるが、データ不足のため分類できない。
	水生環境慢性有害性	データがなく分類できない。
	オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
-------	---------------------------

都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

汚染容器及び包装

内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。

空容器を廃棄する場合は、ラベルをはがし内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報と、分類実施中の 12 項の環境影響情報とに、基づく修正の必要がある。

国際規制	国連番号	1814
	国連品名	水酸化カリウム(水溶液)
	国連危険有害性クラス	8
	容器等級	II
国内規則	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	航空規制情報	航空法の規定に従う。
	陸上規制情報	毒劇法の規定に従う。
特別安全対策		輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物(法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9) 名称等を通知すべき危険有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) 腐食性液体(労働安全衛生規則第 326 条)
毒物及び劇物取締法	劇物(法第 2 条別表第 2)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	非該当
化審法	非該当
消防法	非該当
水質汚濁防止法	指定物質(法第 2 条第 4 項、施行令第 3 条の 3)

大気汚染防止法	非該当
海洋汚染防止法	施行令別表第 1 有害液体物質 Y 類物質
船舶安全法	腐食性物質(危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)
航空法	腐食性物質(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)

16. その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法 PRTR・MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
GHS 分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
GHS モデル MSDS 情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有毒性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。